

沼ノ端拓勇樹林の在り方



令和 4 年 3 月
環境衛生部環境生活課

1 拓勇樹林の現状

(1) 概要

所在地	拓勇西町5丁目4番 拓勇西町6丁目7番
面積	3.2ha
所有	市有地
保全地区指定	平成7年2月

(2) 位置図



2 拓勇樹林の経過

昭和55年	当初は、明野川周辺を自然環境保全地区として指定
平成6年	旧保全地区(明野川周辺)及び現拓勇樹林地区の自然環境調査の実施
平成7年	北海道の河川改修や区画整理事業により現在地へ指定の変更
平成10年代	拓勇樹林周辺の宅地造成・住宅建築が活発化
平成13年	維持管理として、年1回、外周部(約3m幅)の草刈開始
平成20年	風倒木の処分や電線回りの樹木について、最小限の範囲で剪定
平成21年	樹木全体の計画的育成のため、間伐の実施
令和2年	自然環境調査の実施

3 自然環境調査結果 ～植物～

植物相調査 確認種数集計結果

調査区域		拓勇樹林	拓勇公園	指定時(H6) 拓勇樹林
確認数	科	67	44	53
	種数	264	131	157

「かつての勇払原野」の要素が
数多く残された、**貴重な樹林**

種数の増加要因	植生の特質	確認された重要種	
		環境省レッドリスト	レッドリスト記載なし
○指定時の植生の維持 ○光環境の変化 ○種苗供給量の増加 (外来種を含む)	○特徴の異なる植生群落 (ミズナラ・ハンノキ群落) ○大径木が多数生育 (樹齢100年相当のミズ ナラが林冠を構成)	 ベニバナヒョウタンボク	 ※クロミノウゲイスカグラ

※クロミノウゲイスカグラ(通称:ハスカップ)は、レッドリストに記載はないが、勇払原野を象徴する種として、指定時調査でも貴重植物として扱っていたことから、重要種として取り扱う。

3 自然環境調査結果 ～鳥類～

鳥類調査 確認種数集計結果

調査区域		拓勇樹林	拓勇公園	指定時(H6) 拓勇樹林
確認数	目	6	5	6
	科	22	15	20
	種数	39	27	37

鳥類にとって環境は指定時とそれほど変わっていない。市街地の鳥類が増え、**鳥類相が多様化**

繁殖状況	繁殖種の確認状況	重要種
○繁殖種は、森林性の鳥類が主体。そこに農耕地や林縁性の種が加わっている。 ○森林性の種にとり、拓勇樹林があることで、継続繁殖が可能となっている。	○指定時調査のみ～キジバト、カッコウ、オオジシギ、エゾセンニュウ、キビタキの5種 ○今回調査のみ～センダイムシクイ、ニュウナイスズメの2種 ○指定時・今回調査の両方～ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、コムクドリ、スズメ、カワラヒワ、アオジの8種	○今回の調査で重要種は確認されなかった。 ※指定時の調査では、オオジシギ(環境省レッドリスト)が確認されていた。

※生息環境～**緑字**(森林)、**青字**(林縁)、**赤字**(草原)、**黒字**(都市、農耕地)

3 自然環境調査結果 ～昆虫類～

昆虫類調査 確認種数集計結果

調査区域		拓勇樹林	指定時(H6) 拓勇樹林
確認数	目	10	11
	科	120	77
	種数	521	210

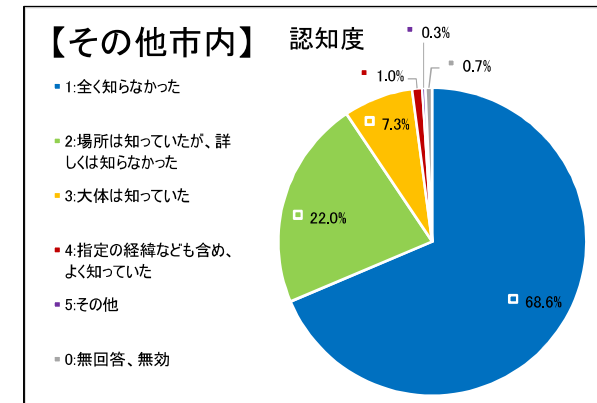
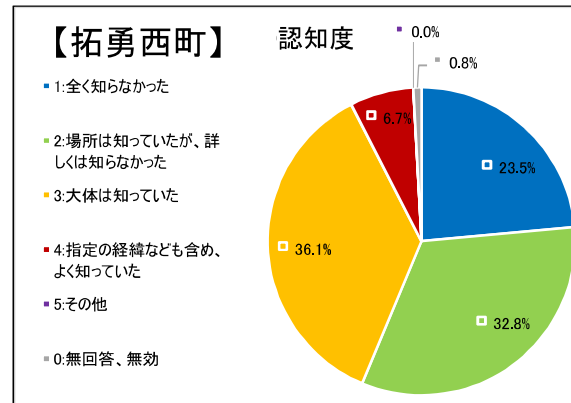
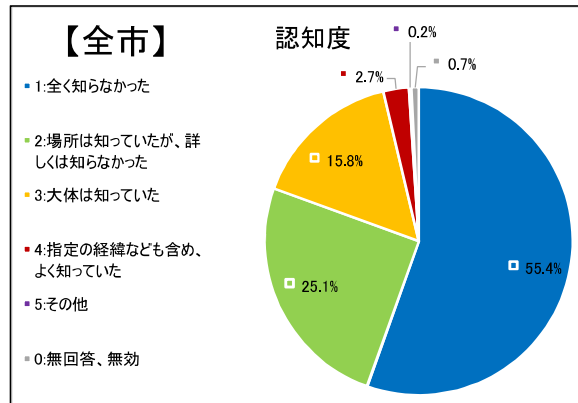
林縁部の環境変化により多様な環境が創出

生息環境として良い環境を維持

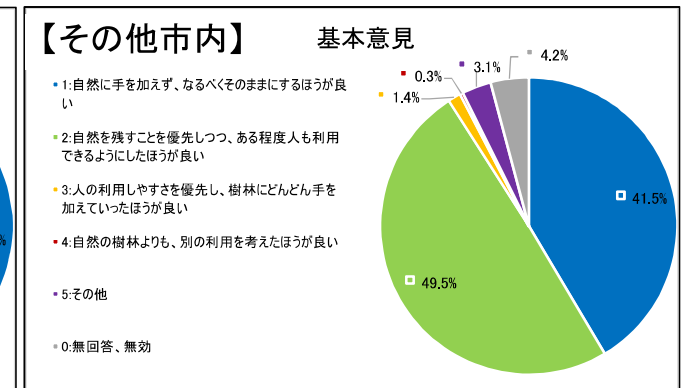
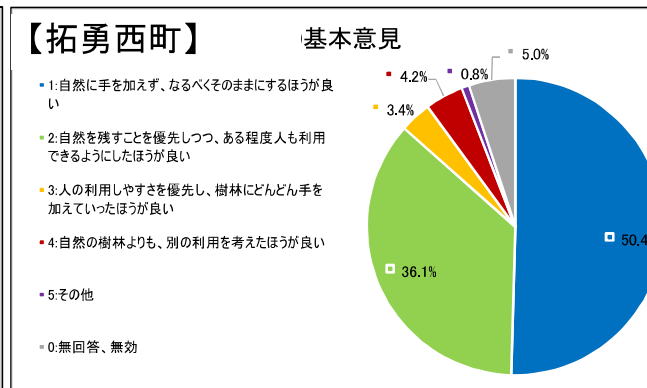
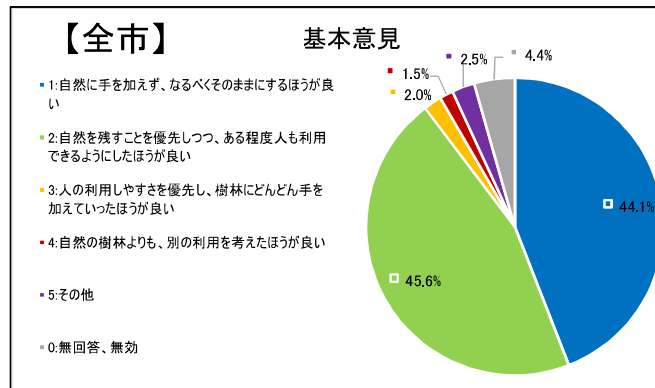
種数の増加要因	確認された重要種		
	北海道レッドリスト	環境省レッドリスト	環境省・北海道レッドリスト
○指定時の環境の維持 ○林縁部の乾燥化 (乾燥を好む種の増加) ○宅地の庭木から飛来	 カラカネイトンボ	 ツノアカヤマアリ	 ゴマシジミ北海道西部亜種

4 市民アンケート調査結果

拓勇樹林の認知度について ➡ **拓勇樹林の認知度が低い**



拓勇樹林の今後の基本的な考え方について ➡ **拓勇西町では、自然保護を重視する傾向が見られた**



5 拓勇樹林の課題と解決策

拓勇樹林における課題

認知度



- 拓勇樹林そのものが知られていない
- 拓勇樹林の価値が知られていない

生活環境



- ゴミのポイ捨て、不法投棄
- 秋に大量の落葉

自然環境



- 外来種の侵入
- ササの生育域拡大

解決策

▶ 拓勇樹林を知ってもらおう



▶ 地域の人に関わりをもってもらおう



6 拓勇樹林の在り方

自然環境保全地区の意義

自然保護を望む地域の声

生物多様性の保全

環境教育の重要性

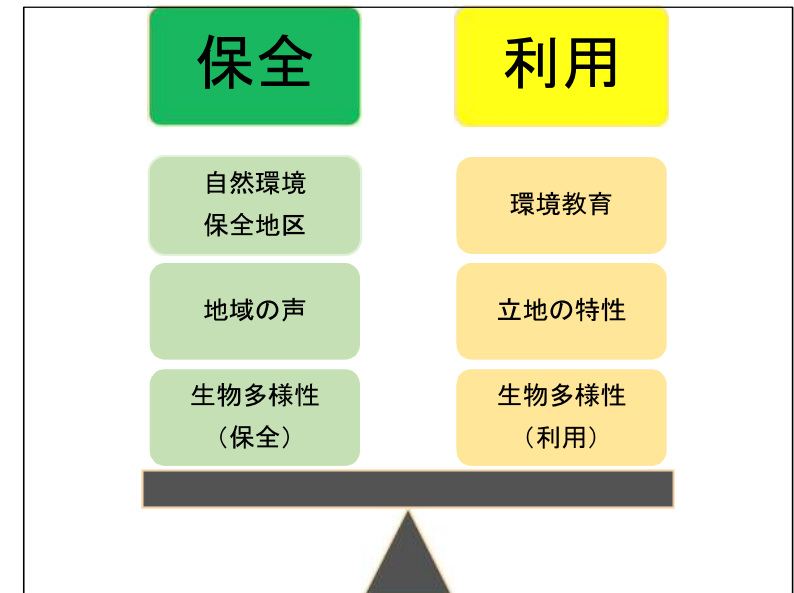
住宅に囲まれている立地の特性

生物多様性の持続可能な利用



【基本方針】

樹林の**保全**と適切な**利用**を図る



バランスが重要

6 拓勇樹林の在り方

解決策	具体的な取組
▶ 拓勇樹林を知ってもらう	説明看板の更新・増設
	樹名板の取付
	外周部の草刈回数等の増加
	観察会の実施
▶ 地域の人に関わりをもってもらう (協働の取組)	ごみ拾い活動
	外来植物の除去
	拓勇樹林パトロール隊(今後の検討課題)



望ましい姿

拓勇樹林を**身近**に感じてもらい、**愛着**を持ってもらう

7 将来の拓勇樹林

将来の変化	
拓勇樹林の自然環境	勇払原野の要素の維持
	乾燥化による植生の単調化
地域住民等の意識	厳正な自然保護を重視する声
	更なる利活用を望む声



環境保全の取組強化や外周散策路等、
将来の変化に応じて、改めて検討が必要